まちづくりミーティング開催結果概要

開催テーマ 桐生市の農業振興

日時：令和5年9月27日（水）午後3時27分～午後4時27分
場所：桐生市新里総合センター 3階 第1会議室

参加者

耕新会　７名　　傍聴者　３名
桐生市長　　報道機関　３名

1　開　会

2　あいさつ

3　自己紹介

4　議　題　　**桐生市の農業振興**

意見交換のポイント

- 耕新会の活動を通じて感じていること
- オール新里産野菜のメニュー化（飲食店との協力）
- 農家を子どもたちが憧れる職業にするために
- 新里をはじめ、桐生市の農業の活性化のために市と共創したいこと　等

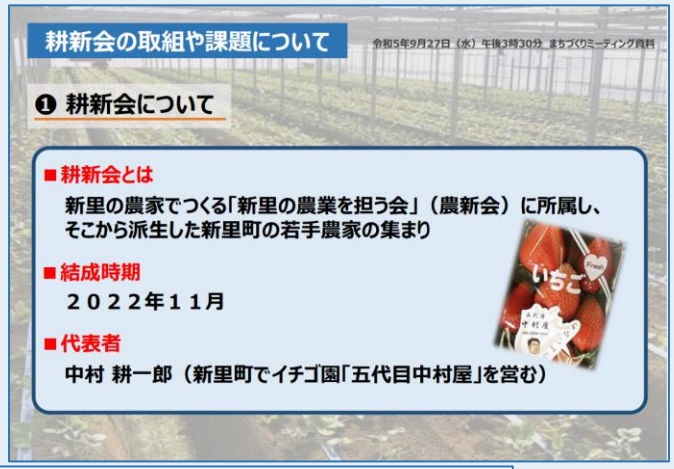
5　閉　会

（市長）
本日は開催テーマを「桐生市の農業振興」とし、皆さんのご意見を伺い、共に考え、新たな取組を創造してまいりたい。

意見交換のポイント
●耕新会の活動を通じて感じていること
●オール新里産野菜のメニュー化（飲食店との協力）
●農家を子どもたちが憧れる職業にするために
●新里をはじめ、桐生市の農業の活性化のために市と共創したいこと　等

にさせていただいた。
まずは「耕新会の会の目的や結成の経緯、取組など」について、説明をいただきたい。

（耕新会 中村代表より「耕新会の活動」について説明）
※資料参照



❷ 耕新会の取組について（耕新会会則より）

目 的

農業に夢と希望を持ち、農業経営を意欲的に実践している者が農業技術の向上、地域農業のリーダー・担い手の育成、意見交換及び会員相互の交流を図り、農業経営の安定と発展を図ること。

事 業

- 地域農業リーダーとしての活動と情報発信
- 人材育成に関する活動
- 農業振興に係るイベントの企画・開催
- その他、目的を達成するために必要な事業

❸ 課題について

農業が抱える主な課題

- 農家資材等の高騰（ハウス被覆資材、燃料、肥料など）
- 人手不足（労働力不足、農家の高齢化）
- 所得・収益の確保
- 農作物のブランド化
- 新規就農者への支援
- 人材確保・育成（農業研修など）
- 生産技術・ノウハウ等の知的財産の保護・活用

（市長）
皆さんの熱意や地域に対しての想い、農業活性化のために活動いただき、大変嬉しく思うと同時に感謝申し上げる。次に、皆さんが普段感じていることや市と共創したいことなどについて意見をいただきたい。

（意見）
職員を長く農業担当として配置してほしい。実際農業が分からない人に一から話を伝えなければならず、現地を見にきていただくこともあるため、異動については考慮してほしい。新里支所にきたい。地域振興課はあるが、他の業務もあるため、農業担当の人員を増やしていただき、農業振興について一定期間は一緒に考えるなど体制にしていただきたい。

農業振興部署を新里支所に

（意見）
桐生市で農業が最も盛んな新里に農業振興部署を配置してほしい。様々な書類についても本庁に行かねばならず、支所でも対応してくれる職員はいるが、直接の担当ではなく、やはり直接話ができるのがよい。

（市長）
現状だと農業の担当は本庁に農林振興課があり、必要があれば現地に出向くなどして対応しているが、さらに対応を充実するための提案と受け止めさせていただいた。この件については、機構改革が必要になり、大きな話となるため、トータルな機構改革の話として担当と相談させていただきたい。それが難しい場合であっても支所機能を充実できるような仕組みづくりの検討は可能であると思う。前例にとらわれず新たなチャレンジということで皆さんと一緒に考えながら進めていきたい。

（意見） 20代・30代の若手農家が新里は多く、世代交代の真っ最中であり、今後はこれから農家を担っていくような方が農業を続けて行けるように行政には協力してただきたい。そのようなお土台作りをしっかりとしていただくよう、今後20年・30年これからの地域の農業は明るい農家に思われる。新里地域の農業の足の心配については今のうちにとこの後継者のない不育成について考える必要があるのは一杯ある。また、アイデアは一杯で中々実行に移すのは手一杯で余裕がないため、そのようなことがないように地域おこし協力隊がミッションとして関わることで新里の農業の活性化に繋がることから、今後も地域おこし協力隊を継続的に採用していただくよう お願いしたい。

（市長） 地域おこし協力隊の活動については、まず、地域の方にかわいがってもらうことが自分の仕事を進める上での前提と考えているが、地域に溶け込み、一生懸命頑張っていただいているので大変嬉しく思う。自分自身、今回のような若い方が集まる会議に参加する機会があまりなく、このような若手の方が集まり、新たな取組にチャレンジすることを目的にした活動や団体は素晴らしく、今、桐生市に必要なことであると考えている。皆さんの活動が地域活性化の一つのモデルとして発展していただければと思う。また、地域おこし協力隊については、要望に応えられるように調整していきたい。

（意見） 野菜の栽培については、ストーリー性がないといわれている。自分たちは野菜ができたら農協に出すのみで終了している。販売まではできればいいが、中々余裕がないため、地域おこし協力隊が販売を行い、お客さんへの架け橋をしてくれ、生の声を届けてくれている。農業分野における地域おこし協力隊を継続し、新里のおいしい野菜をもっと世間に売り出したい。

（市長） ストーリー性を出すため、地域おこし協力隊が出口の最終的なところをやってくれている。皆さんのそれぞれの分野の中で役割分担して取り組めていることは大変いいことである。

農業経営支援の拡充について

（意見）
ハウス栽培のビニールの張替えについて、資材高騰の影響により、5年前は1反張るのに152万円であったが、今では見積額だが236万となっており、84万も増額している。自分は3反経営しているため、5年間で240万円ぐらいの負担増となっている。それに対し、ハウスのなすの販売単価は2015年で394円／kg、今年は388円／kgで単価は上がっていないという状況の中で負担が大きくなっているのは本当に大変であるため、現在も補助金を市からいただいているが、これから先、安定して経営していくためにも補助金の拡充についてお願いしたい。
ハウス栽培のメリットとしては、天候に左右されず、年間を通して作物を栽培可能であり、病害虫のリスクも軽減でき、減農薬栽培が可能になるということであるため、これから安心安全で新鮮な野菜を栽培するために支援拡充をしてほしい。

（市長）
実際生の声をきかないとそのようなことを把握することができず反省しなければならない。ビニールハウスの張替え以外でもどこまで農業支援できるか十分検討していきたい。

（事務局）
県の単独補助事業では、「野菜大国・ぐんま」や農業経営力向上事業（旧はばたけ「ぐんまの担い手」支援事業）などがあり、補助率は県が3／10、市が1／6となっている。資材高騰も深刻な問題なので、支援拡充できないかについては、持ち帰り検討させていただきたい。

（意見）
今後はスマート農業を進めていく必要がある。環境負荷の低減にも繋がり、山本知事も有機野菜を推奨しており、そこに農薬は使えないため、スマート農業が有効である。しかし、スマート農業を進めていくためには、新たなチャレンジをしていくことや、若手の新規就農者を積極的に受け入れていかなければならない。また、新里においては、今のところ後継者不足の問題はなく、農地にしてみても使用していないところはない状況であるが、今後はハウス栽培に重点を置きたいと考えている。このコロナ禍で人間一人一人の免疫力が重要であり、個々の免疫力があればウイルスに対抗できるということが分かった。野菜においても、1960年頃からすると今では栄養価が1／4ぐらいになってしまっており、その要因としては、季節がなく、今は冬野菜が夏でも食べられるようになっている。やはり、野菜本来の旬な時期に食すのが一番自然で栄養価も高い。一方、ビニールハウスでつくるメリットもあり、例えば冬にきゅうりが出せるということで、寒いから時間がかかり栄養価がのってくるということもある。いずれにしても、新里はハウス栽培のなす、きゅうりがブランド化し、一大産地になってきたため、ハウスの被覆資材費に支援をいただきたい。市では、球都桐生など市長自ら新しいことをしていただいているが、農業支援についても、他市が行っているからということではなく、桐生市だからこそ他市が羨むようなことを先駆けてやっていただきたい。そうすれば市と農家がお互いにとって利益が得られると思われる。私たち若手の農家と話し合い、改善しようとしていることについて、様々な場面で話していただければ、農業に目が向き、支援について理解が得られ、桐生市の農業が益々良くなっていくと思われるためお願いしたい。

（市長）
正にそのとおりであり、自分もチャレンジが大好きで前例などにはとらわれず、皆さんのアイデアや知恵を集めて一緒になって独自のブランドなどを作っていければと考えている。

就農支援への協力について

（意見）
自分は酒米を通して田植えから稲刈り、酒蔵見学、試飲までを携わることになり、市が起業したい移住希望者を支援しているので、就農希望者から農業研修などの要望があった場合には、可能な範囲でお手伝いできればと考えている。

（市長）
移住・定住に関するワンストップ窓口「むすびすむ桐生」を8月に開設したため、新規で農業をしてみたいという希望者も出てくると思われる。

（意見）
実は、先日、新規就農希望の方から相談があり、中村代表に紹介させていただいた。

（市長）
市では、新規就農者への周知などの売り込みをしっかりとして、希望者を受け入れていただくのは皆さんにお願いするなど、桐生市の農業を盛り上げるような形でフォローアップしていきたい。就農希望者への対応の際は、是非お力を貸していただきたい。すごく前向きな意見をいただいたので大変嬉しく思う。

農家の高齢化への対応について

（意見）
自分が田植えを始めてから7年経ち、7年前も問題視されていたが、ここ3年で入院などの理由で稲刈りができないという高齢の方が年々増えてきており、数件の水田の管理を受託している。農家が高齢化することにより、畑の維持・管理が困難となってきてしまうため、自分もこの地に根付いて誇りをもって働いているため、営農していくにあたり農業機械や人材育成・確保について、市の支援を検討していただきたい。自分も経営力を向上させ、市とそのような支援を共創していければと考えている。

（市長）
高齢化については、様々な業種で問題視されているが、特に桐生市では製造業でそのような問題が多く、後継者も不足しており、未だに後継者が決まっていない会社が全体の6割くらいあると聞いている。また、その中でも利益を出しながら人員が確保できず廃業しなければならないというのが一番残念で実際に眼の当たりにしている。農業については、身内のみではなく、第3者的な方で若手に継いでもらうことも必要であると考えるが、農家の技術やそれぞれが培ってきたノウハウを継承していくにも各々のプライドがあるためその辺は非常に難しいところである。素晴らしい作物を栽培し、今後もお客さんに食べていただくには承継が非常に重要であり、新里では後継者不足は問題ないということであるが、長期的な視点で今何をしなければならないかを考えていかなければならない。

農薬の使用について

（意見）
農薬の使用については、自分の畑だけをきれいにしてもその周りがきれいでないと農薬を散布して害虫が一旦いなくなってもまた戻ってきてしまう。実際のところ、野菜については農薬を使えば単価が高くなってしまうため、本来、無農薬で出したいと考えているが、遊休農地が増えていくと害虫も増えるため、どうしても農薬を使用しなければ商品にならないし、農薬散布により野菜自身の免疫力もなくなってしまう。
実際には困難な話かもしれないが、遊休農地など自分では耕すことができない人と農家との間に市が入り、市からの依頼により農地を耕すことにより、依頼主から市に何割、耕した農家にも何割というようなシステムができれば、双方にメリットがあると思われ、農家はそれを防除費に充てることができるということにもなる。

（市長）
そのような生の声を聴けるというのは非常にありがたい話である。

（意見）
自分は新規就農で何もないところから始めて4年目となるが、自分の場合はたまたま人間関係で周りに恵まれ、栽培方法を教えていただいたり、遊休農地を紹介してもらえたり、機械を貸してもらえたりなどでやっていけているが、もし自分と同じように新規就農者がいた場合に、何も情報がないため、例えば、使用していない機械を安く譲り受けたり、農業資材を分けてもらえたり、土地を使っていなど、市が間に入って新規就農者へ情報を提供することができれば既存農家とのネットワークも繋がり、うまくいくのではないか。

（事務局）
遊休農地については年1回農業委員が調査しております。また、地域計画を作成するため、農地を集約することなど農地活用のための意向調査を行うことにより、農地を貸したいなどの情報は、皆さんに提供できると思う。

（市長）
そのような情報についても活用していければいいと思うので、今後一緒に考えて行ければと思う。

新規就農者への支援(情報提供など)について

新里産野菜の地産地消について

（意見）

桐生名物のソースカツ丼は新里のもので全部できる。養豚農家もいるし、キャベツや米もあるし、地産地消により市のＰＲになってくる。政治は若者離れがあるが、自分たちはお年寄りに育てられたため、自分たち若手がお年寄りの未来を考えてあげたいと思う。後継者不足や土地の問題などをみんなで考えていきたいため、市長との意見交換を重ねていきたい。これからも耕新会には色々な方をメンバーに加えやっていければと考えている。

（市長）

今、少しずつであるが、地元産の食材を学校給食に活用しているが、桐生市産で賄えるだけの安定的な量が確保できれば学校給食の地産地消も可能であると考える。

（意見）

桐生市の学校給食のお米を地元産にして正規な値段で購入していただければ、それだけで私たちにとっては補助になる。正規な値段でなかったり、購入してくれる方がいないため酒米の方に移ったりしている現状がある。また、６次産業化については、自分たちは６次産業化のために規格外の野菜を作りたくて作っているわけではなく、どうしてもいいものを作っている中で出てきてしまうものに対して６次産業ということであるため、いいものを作るほうにフォーカスを置き、それを作るための支援をしていただきたい。自分も新里の学校給食で野菜を提供したり、子どもたちに野菜の収穫をしてもらったりしているが、地元の子どもたちが社会科勉強で野菜を見たりするので、給食は、なるべく地元の野菜を使ってもらいたい。そういうことで農家への支援になるし、農家の励みにもなる。

（市長）

子どもたちが小学校のうちから農業の良さ・素晴らしさ・楽しさを伝える取組はしていくべきであると考えている。現在、「ミニきりゅう」という子どもたちだけで社会の仕組みを学ぶ事業を実施しているので、職業の種類に農業を入れて農業が楽しいと思えるような取組もできると思われるので、次年度は、農業関連の働く場を導入することができればと思う。

色々とお話を伺う中で抱えている課題に対ししっかりと対応していかなければならないと感じた。これがスタートで今後も色々なところで情報交換などを行い、農業振興について議論を深めていきたい。